

はじめに・目次

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10232/12809

はじめに

本書は、平成21年度鹿児島大学憲章等に基づくプロジェクト事業「島嶼プロジェクト」～豊かな島嶼の発展のために～事業の報告書である。

鹿児島大学憲章では、その前文に「鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある。」とし、さらに、そのような地理的特徴のもと、「地域の特性を生かした教育」と「地域の要請に応える研究」を行い、「地域社会の発展と活性化」に貢献すると謳っている。また、平成22年～28年度の第Ⅱ期中期目標・中期計画では、【大学の特色を活かした研究活動】として「鹿児島大学は、独創的・先端的な研究を積極的に推進するとともに、総合大学の特色を活かし、島嶼、環境、食と健康等の全人類的課題の解決に果敢に挑戦する。」、【教育内容及び教育の成果等に関する目標】として、「地域社会の諸問題の解決に向けて、幅広い観点から取り組む人材を育成する。」、【国際化に関する目標】として「島嶼、環境、食と健康等の国際的課題の解決に貢献する。」などの目標を掲げている。

そのような鹿児島大学の目標に沿って、本事業では、鹿児島大学多島圏研究センター（現、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）が継続して行ってきた、南北600kmに連続する鹿児島県島嶼域を対象にした研究「小島嶼の自律性並びに新・道の島々センサーゾーン拠点形成研究」の成果を積み上げ、その総括と社会への還元と貢献を目指すことにした。具体的には、鹿児島県の島嶼群を比較研究することにより、地域の特色を活かした島嶼研究の成果を上げ、国内外の島嶼研究拠点形成に大きく寄与することを目的にした。特に、地球温暖化が進行する中で、島嶼地域の自然、人、文化、産業、社会などに及ぼす影響について重点的に研究し、国内拠点形成のためのデータベースの蓄積を行うことにした。

そのような目的のもと、学内の各部局と多島圏研究センターに所属する衛生環境、自然環境、漁業、農業、地域行政、情報フロー、自然史・生活誌・芸能文化という多様な専門分野の研究者が統合的チームを作り、南は与論島から北はトカラ列島、屋久島、北薩摩獅子島までの鹿児島県島嶼域の自然、文化、歴史、さらには人々の生活について調査を行った。その結果、島嶼の連続性と個性性についての多くの知見が得られ、今回「南太平洋海域調査研究報告（Occasional Papers）」にまとめることができた。これらの成果から、鹿児島県の個別島嶼の個性発揮と発展だけでなく、連続した島々をつなぐ‘豊かな島嶼の発展のため’の統合的方策確立の見通しが緒に就いたものと考えられる。

今後は、さらに各専門や学融的視に立った専門図書刊行やシンポジウム、フォーラムなどの手段を駆使した成果の公表などを通じて国内外の島嶼地域の振興や地域学術の発展に直接貢献することが重要であり、そのためには、今回得られた知見の補足的な調査を継続することが必要不可欠である。今後も、本事業に参加あるいはご協力いただいた関係各位の継続したご指導・ご助言をお願いしたい。

なお、本研究は学長裁量経費によるものであり、すべての執筆者・研究協力者が鹿児島大学に所属している。そのため一部では鹿児島大学を省き、各所属のみを記載した。また、本報告書刊行にあたっては文部科学省研究拠点形成等補助金「国際島嶼・環境・医療教育研究支援プロジェクト（平成21・22年度、拠点リーダー：野呂忠秀鹿児島大学大学院連合農学研究科教授）」の協力を得た。内容的にもまさに、島嶼の社会・教育・自然・地域産業をめぐる環境や、保険・医療環境の実践的内容に真摯に取り組んだ内容である。島嶼の国際比較の基礎となる本プロジェクトに対して、公刊機会を与えていただいたこ

とに対して、特に記して感謝したい。

英文標題にはHomeostaticを用いた，これは多島圏研究センターで小島嶼自律性を研究してきたときに用いてきたHomeostasisを継承している。豊かさの日本語翻訳にも苦慮した。ガルブレイスの『豊かな社会』や，1980-90年代当初に国内や北欧も巻き込んで議論されてきた，Stockやゆとりに欠けるAffluentという言葉をあえて用いた。小さな島でもそれを乗り越えるバランスと底力のある「豊かさ」を確立する必要があるという意味で，“Affluent and Homeostatic Island”としてand でつなぐことにした。ここはまだ議論の余地があるので，次なる展開を国内的にも国外的にもつなげたい。

最後に，本プロジェクト事業の実施にあたり調査実施予算面での配慮をいただいた鹿児島大学吉田浩己学長をはじめ関係各位に深く感謝する。

2011年3月10日

鹿児島大学農学部

(前多島圏研究センターセンター長) 富永茂人

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター (同プロジェクト担当センター員) 長嶋俊介

目 次

島嶼プロジェクト研究「豊かな島嶼の発展のために」報告書を、次の展開として予定している国際島嶼教育研究センター内の文理融合型の3研究領域（南太平洋海域調査研究報告No.50, pp.5-6参照）の分類に従い、掲載する。

はじめに i

島嶼環境学領域

（島嶼における自然・社会構造の多様性の現状を研究し、その維持機構の解明を目指す）

八田明夫他：喜界島から産出する有孔虫化石について（予報） 1

梁川英俊：なぜ島唄を習うのか？－奄美大島における島唄教室の調査から－ 11

河合 溪他：奄美群島住用川河口干潟における貝類相と環境 17

島嶼社会領域

（島嶼域が抱える諸問題の現状を把握し、その対処方法の構築を目指す）

桑原季雄：与論島における観光再生の現状 21

鳥居享司：瀬戸内町漁協における漁協経営改善の取り組み 31

長嶋俊介：鹿児島島嶼の列島性－連続的地域特性の現地確認
（社会＝生活環境・島嶼経営領域）－ 37

島嶼適応領域

（島嶼における自然環境を考慮した自律的発展を追及する）

西村 知他：奄美における社会経済調査：豊かな島嶼の発展を視野に入れて 47

小針 統他：奄美リュウキュウアユ仔魚の餌環境および栄養状態の定量的評価に
関する研究 51

野田伸一：トカラ列島の中の島におけるブユ対策 57

日高哲志：パパイヤ果実の凍結乾燥とその利用 65

富永茂人他：与路島および中之島のカンキツの分類 73

Contents

Preface	i
Area of Island Environments	
On Foraminifer Fossils Included in Strata of Kikaijima Island (Preliminary Report), HATTA Akio	1
Why Do People Learn Shimauta? A Survey of Shimauta Schools in Amami-Oshima Island, YANAGAWA Hidetoshi	11
Environment and Molluscs Inhabited in Sumiyou Tidal Flat, Amami KAWAI Kei, et.	17
Area of Island Societies	
Revitalization of Tourism in Yoron Island, KUWAHARA Sueo	21
Initiative to Improve Management for the Fisheries Cooperative Association – The Case Study of Setouchicho FCA in Kagoshima Pref. – TORII Takashi	31
Island Groups of Kagoshima Prefecture as the Chain of Islands – A Field Confirmation of the Continuous Area Characteristic Between Islands from Social and Livelihood Environmental Domain for Islands Management- NAGASHIMA Shunsuke	37
Area of Island Adaptabilities	
Socio-economic Research in <i>Amami</i> : for the Better Future of the Islands NISHIMURA Satoru, et.	47
Study on Quantitative Evaluation of Food Availability and Nutritional Conditions for Fish Larvae, <i>Plecoglossus altivelis ryukyuensis</i> , KOBARI Toru, et.	51
Control of Black Fly in Nakanoshima Island, Tokara Archipelago NODA Shinichi	57
Freeze-Drying of Papaya (<i>Carica papaya</i> L.) Fruit for Food Products HIDAKA, Tetsushi	65
Classification of Citrus in Yorojima and Nakanoshima Using Gene Analysis TOMINAGA Shigeto, et.	73